

ときめき インタビュー



渡邊 航貴 (わたなべ こうき/Kouki Watanabe)

…プロフィール…

平成11年1月29日、越谷市生まれ。大袋北小学校6年生のとき、バドミントンのジュニア全国大会でベスト8に入ったことなどから、埼玉栄中学校の誘いを受け入学。今年4月からは埼玉栄高校3年生。国内外の大会で活躍し、昨年は「全日本ジュニア選手権」で男子シングルス優勝、「世界ジュニア選手権」ではシングルス銅メダルを獲得したほか、東京オリンピック強化選手にも選出。現在の世界ジュニアランキングは日本人トップの第5位(2月現在)。



大会では女の子のファンにサインを求められたり写真を一緒に撮って欲しいと言われるそう。

2020年7月開催の東京オリンピックまで4年半を切り、さまざまなスポーツでオリンピックに向けた若い選手の強化活動が始まっています。世界でもトップレベルの実力を持ち、メダルの期待も高まる日本のバドミントン界で強化選手に選ばれた、越谷生まれ、越谷育ちの17歳・渡邊航貴選手に今の思いを伺いました。

★バドミントンを選んだのはサッカーの迷いから

渡邊さんは幼稚園のときにサッカーとバドミントンを始めたという、根っからのスポーツ少年。

「4歳上の姉の影響でバドミントンクラブに入ったのですが、その頃夢中だったのは断然サッカー。でも小3くらいから自分がサッカーのどのポジションをやりたいのかわからなくなってしまった。それから個人がメインのバドミントンに専念しようと決めたのが小4のときです」と渡邊さん。

★先輩からのキツイ一言が成長のきっかけに

全国から実力のある選手が集まる中学校に入り、平日は毎朝7時半からの朝練と放課後午後8時までの練習、土曜・日曜日も午前中

から夕方まで練習というバドミントン漬けの日々がスタートしました。それは高校生の現在も変わりなく続いているそうです。「中1のときは朝起きるのが本当につらかったけど、いまはすっかり慣れました。埼玉栄は常に試合形式で練習をするんですが、それがとても自分に合っている。試合に勝つためにどうすればいいのかが、自分のどのプレーが良くて、どのプレーが悪いのかを常に考えながら実践するのがすごく楽しいし、ためになります。バドミントンは相手との駆け引きが重要なスポーツだから、強くなるためには考えなくちゃ絶対ダメ！」という渡邊さん。

また考えることと同様に、周りの人からのアドバイスも聞くこともすごく大切にしていると言います。今までで一番考えさせられた

★たくさん応援をもらって力に変えたい!

「強化選手になる前は、オリンピックにいつか出られたらいいな、くらいの感覚でしたが、選ばれた後は、『出たい!』と強く思うようになりまし。また海外遠征の機会が増えて思うのは、日本でバドミントンがもっとメジャーなスポーツになってほしいということ。バドミントン強豪国の中国やマレーシアなどは選手も多いし、競技の人気や注目度も高い。でも日本のバドミントンは世界レベルなのに、まだまだマイナースポーツ。自分ももっと強くなってメジャーにしたいですね」と渡邊さん。今後の目標は?と尋ねると、「ハードルは高いけど、東京オリンピック



「こんなに練習する学校は多分ない」と監督が言うほど、埼玉栄の練習量は圧倒的。

みはなく、多忙な毎日ですが、たまに練習が早く終わった日は小学生の頃に通っていた出羽バドミントン・ジュニアクラブに顔を出し、子どもたちに教えることもあるそうです。「僕自身、小学生当時はただただ練習を頑張っていただけでしたが、いま思

い返すと『どうしたらうまくなるのか?勝てるのか?』をちょっとでも考えて練習していたら、もっと強くなれたと思う。いま頑張っている子たちには、それを伝えたいですね」と渡邊さん。

市民の皆さんには「たくさんの人から応援してもらえたらやっぱりうれしいので、ぜひ応援よろしくお願いします。もらった応援をうまく力に変えて、東京オリンピック

もらった応援をうまく力に変えて、東京オリンピック出場を目指します!



バドミントン選手 渡邊 航貴 さん

試合前は必ず音楽を聞きながら試合のシミュレーションをします。よく聞くのはノリのいいEXILEの曲です



渡邊さん愛用のラケット。時には試合中に折れることも。